

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 長尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

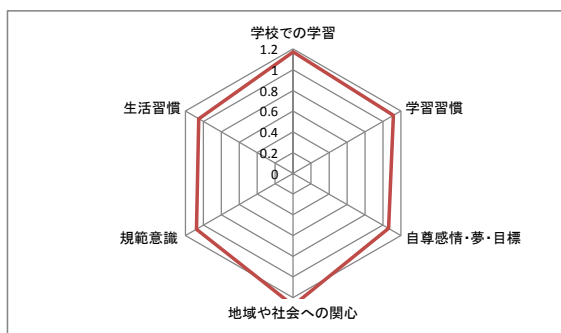
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的には、全国平均正答率を上回っていた。読む力を問う問題は、よくできていた。文法(主語・述語)等、言語知識理解にやや課題が見られる。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	(筋道を立てて話す)説明・(文章全体の構成の効果)説明・(目的に応じて情報を捉える)問題が、よくできていた。	
	努力が必要な問題	漢字(製・管)を書くや敬語・文法(主語・述語の関係)の問題	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全体的には、全国平均正答率を上回っていた。選択式の問題はよくできている。記述式の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	(話合いの参加者として質問の意図を捉える。)(文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む。)問題	
	努力が必要な問題	(話し手の意図を捉えなが聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。)話すこと・聞くことの問題	
算数A	全体的な傾向や特徴など	全体的には、全国平均正答率を上回っていた。「数と計算」「量と測定」はよくできていた。「図形」「数量関係」がやや課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	(角の大きさを読み、求める)問題。(除法で表すことができる二つの数量の関係を理解する。)問題	
	努力が必要な問題	(直径の長さと同周の長さに関係する)問題。(百分率で求める)問題	
算数B	全体的な傾向や特徴など	全体的には、全国平均正答率を上回っていた。「量と測定」「数と計算」はよくできていた。数量関係や言葉で説明する問題にやや課題。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	(図形の構成要素基に、集まった角の大きさの和が360°になっている。)(条件に合う時間を求める)問題	
	努力が必要な問題	(メモの情報とグラフを関連付け、変化に着目し記述する。)(棒グラフと帯グラフから読み取り、判断する)問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的には、全国平均正答率を上回っていた。どの領域もよくできていた。記述式の問題にやや課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	(堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解する。)問題(2つの異なる方法の実験結果を分析し考える。)問題	
	努力が必要な問題	(上流側の天気と下流側の水の関係について言えることを選ぶ)問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に昨年度よりもどの項目においても向上してきている。特に、地域や社会への参加への意欲が高い。</li> <li>・家庭学習は、しっかり取り組んでいるものの、1時間以上かけている人数の割合がやや低い。</li> <li>・学校の授業以外で、読書をしたり、新聞読んだりする割合がやや低い。</li> <li>・理科の授業で、前向きに、自分の考えを周りの人に説明したり、発表したりする人数の割合がやや低い。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりするような授業の改善を目指す。
- 自分の考えを書くときには、文字数を指定するようにし、端的に書く力を育てる。
- 算数の授業では、算数的活動を言葉で説明する力を育てる。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の充実 ・宿題と合わせて自主学習を行うこと。 ・自学ノートの推進(学級・学校で掲示)
- 読書の推進 ・読み聞かせ ・図書の貸し出し